

平成22年度 学校評価シート

学校名：和歌山県立和歌山工業高等学校

学校長名：西脇 英雅

目指す学校像 ・ 育てたい生徒像	<ul style="list-style-type: none"> ・校訓である「質実剛健」のもと、健全な心身の発達に努め、自主自立の精神をもって工業技術を体得し、我が国産業発展の原動力となる生徒を育成する学校 ・勤労を尊重する精神を養いながら自らの個性を伸ばし、わが国産業の発展に貢献できる心身ともにたくましい生徒
------------------------	---

本年度の重点目標 (学校の課題に即し、精選した上で、具体的かつ明確に記入する)	1 外構付帯・既存棟解体・第4棟大規模改修工事を計画的かつ円滑にすすめる。
	2 別室謹慎を有効に活用しながら、生徒指導の充実を図る。
	3 学力向上に向けて、授業の充実と基本的な学習習慣の定着を図る。
	4 地域産業界との連携を密にして、有為な人材を育成する。

達成度	A	十分に達成した (80%以上)
	B	概ね達成した (60%以上)
	C	あまり十分でない (40%以上)
	D	不十分である (40%未満)

学校評価の結果と改善方針の公表の方法
年度末に発行する学校だよりにより学校評価の結果を掲載するとともに、昨年度に引き続き、本校ホームページでも公表する予定である。

(注) 1 重点目標は3～4つ程度設定し、それらに対応した評価項目を設定する。 2 番号欄には、重点目標の番号を記入する。 3 評価項目に対応した具体的取組と評価指標を設定する。
 4 年度評価は、年度末(3月)に実施した結果を記載する。 5 学校関係者評価は、自己評価の結果を踏まえて評価を行う。

自己評価					年度評価 (3月4日現在)		
重点目標					評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善方針
番号	現状と課題	評価項目	具体的取組	評価指標			
重点目標 1	昨年度9月末に新校舎が完成したが、本年度は外構付帯・既存棟解体・第4棟大規模改修工事が予定されている。これらの工事を教職員はもとより、地域住民の協力を得ながら進めていく必要がある。	職員会議で全教職員に各工事計画を提示し、教育活動に支障がでないよう配慮しながら、計画的かつ円滑に工事を進めることができるか。	職員への周知徹底	職員会議等で意見交換し、意思疎通を図る。	B	○各種工事の時期や作業内容に関する連絡が行われた。 ○生徒に教室や自転車置場等への移動経路や、工事に関する注意点を周知徹底することができた。(80%) ○教育活動や安全に配慮しながら各種工事が行われた。(70%)	○新校舎での飲食やゴミ、エレベータの使用等、新校舎の使用上のルールが守れない生徒がいる。 →新校舎の使用上の注意点を生徒に周知徹底させるとともに、特に新改築された箇所は長くきれいな状態であるよう指導する。
			新校舎の使用や工事について、生徒への指導	生徒に新校舎の使用や工事についての注意点を守らせる。			
			学習環境の保障	教育活動への影響を最小限にする。			
2	昨年度も家庭謹慎を中心として、別室謹慎も場合によって活用しながら特別指導を実施した。延べ72名の生徒を指導したが、さらに本年度は問題行動に応じ、別室謹慎の有効性を検討しながら活用し、指導の充実を図りたい。	別室謹慎を生徒の家庭環境や問題行動の内容に応じて、どれだけ有効に活用することができるか。	別室謹慎の積極的な活用	別室謹慎を50%以上実施する。	B	○生徒の家庭環境や問題行動に応じて、別室謹慎が有効に活用された。(88%) ○問題行動の内容に応じて、地域や関係諸機関及び教育相談等と連携がとれた。(87%)	○生徒指導件数は減少傾向にあるが、授業態度は勿論、遅刻や過度なアルバイト等基本的な生活習慣が確立できていない生徒が年々増えている。 →授業態度や遅刻、服装等の基本的な生活習慣の確立に向けて全職員で取り組む。
			関係諸機関や教育相談との連携	関係諸機関との連携を密にし問題行動に応じて、教育相談と連携する。			
			基本的生活習慣の確立	生徒の基本的生活習慣の確立に向けて全職員が協力して取り組む			
3	生徒の授業への参加、取組の姿勢に消極的な部分が見受けられる。また、昨年度7科の専門教科と大部分の普通教科で研究授業を実施したが、形式的になってしまった。本年度は授業改善につながるよう、工夫して取り組む。	教員が研究授業等を積極的に起こさない、生徒の主体的な学習を促す授業改善がおこなわれているか。	授業規律の確立	管理職や各専門科で授業巡視を行う。	B	○教頭2名で各科の授業巡視を実施した。また、専門科の教員の協力を得て授業規律保持のため巡視を行った。 ○全ての教科で研究授業を実施した。 ○各教科で創意工夫ある授業が行われている。(85%) ○生徒の授業評価を効率的に活用できている。(80%)	○研究授業が行われたが、各教員への浸透が弱い。 →教員の授業参観をより一層勧める。 ○授業評価で、予習・復習を十分行っている生徒がやや少ない。 →やる気と目的意識を持たせ、家庭学習の習慣を身に付けさせるように工夫する。
			研究授業や公開授業の積極的な実施	研究授業の研究協議が授業改善につながるよう工夫する。			
			生徒評価の効率的な実施と活用	生徒による授業評価アンケートを実施し授業改善に役立たせる。			
4	昨年度で3年間の「地域産業担い手育成プロジェクト」事業が終了した。しかし、教員の資質向上やキャリア教育の充実に向け、教員研修や生徒のインターシップやデュアルシステムへの取り組みを継続する必要がある。	県教委や経営者協会と連携しながら、教員の企業研修や生徒のインターシップ等を充実させているか。	インターシップやキャリア教育の充実	生徒、企業、保護者との連携を深めながら、計画的に行う。	B	○生徒のインターシップについては、生徒の自主性をより重視する方向で実施できた。 ○地域企業と連携した外部講師を招いての専門研修を実施できた。 ○教員の夏期研修については各科から3名の教員が技術講習会に参加した。	○効率的、効果的に地域企業との連携を行う。 →生徒のインターシップや地元企業との連携、教員の夏期技術講習会への参加については、継続し更なる推進を行う。また、授業における専門性の向上のためにも、ものづくりを中心とした教員研修によりスキルアップを目指す。
			物作りを中心とした教員研修の充実	夏期研修等を利用した技術講習会に参加する。			
			地域産業との更なる連携の向上	就職等、関連した企業訪問による連携の強化。			

学校関係者評価
平成23年3月11日 実施
学校関係者からの意見・要望・評価等
○工業高校を取り巻く環境は時代の変遷の中で大きく変わっている。これからは機会があれば、和歌山という狭い地域をこえて、グローバルなコミュニケーションのとれる海外の諸学校との交流を積極的に進めることが望まれる。 ○各学科により異なるが、就職した際に業務に活かす事ができる資格の取得制度が多くあれば良いと思う。 ○通学途中、自転車の無灯火、信号無視、並列走行、携帯電話を使用しながらの走行等、交通マナーが良くないので、その点についてより一層の指導をお願いしたい。